TRIBUNE SHIKOKU
編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。
情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp 昭和31年2月27日 第三種郵便物認可 第1643号 令和8年9月25日（金曜日）

tribuneしこく トリビューン

《毎月5・15・25日発行》
発行所 ㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219 FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

とりびゅーん・しこく

あすに向かって 人の花咲く やすらぎと感動の郷土 阿波市
阿波市
AWA CITY
〒771-1695 徳島県阿波市市場町切幡字古田201番地1
TEL.0883-36-8700 fax.0883-36-8760
http://www.city.awa.lg.jp

後藤田知事は九月議会で「新ホールの建設費は二百億円を下回る」と答弁したが、石本建築事務所が提案した二階部分のコモンデッキは二百億円の予算に入っていない。デッキ部分を換算すると、建設費は約二百三十億円に膨れ上がる見通し。

# 「思わぬ誤算」ブランド戦略 徳島県

## 十文字チキン四国が阿波尾鶏から 撤退」?!

## たった二ケ月で「存続」から方針転換

徳島の地鶏・阿波尾鶏のブランド戦略はどうなるのか。海陽町の㈱丸本とつるぎ町の㈱十文字チキン四国が生産・販売するが、十文字チキン四国の阿波尾鶏事業からの撤退説が浮上。波紋を呼んでいる。十文字チキン四国は貞光食糧工業から事業譲渡を受けた新会社だ。阿波尾鶏は年間生産羽数が約百七十万羽。名古屋コーチンなどを抑えて全国の地鶏でトップだ。官民協働で築き上げた地鶏ブランドが企業M&Aで揺れている。

### 取引業者に販売停止を通知

今年九月、食品業界で十文字チキン四国の阿波尾鶏事業からの撤退説が流れた。同社が複数の取引業者に阿波尾鶏商品の来年二月末での販売停止を通知したからだ。

同社関係者間にも撤退情報が広まった。内容は「来年二月末で阿波尾鶏の処理と販売をやめる」というものだ。業界紙の食品速報も九月十五日号で阿波尾鶏事業の縮小説を報じた。

撤退が事実なら、県と関連企業で構成する阿波尾鶏ブランド確立対策協議会が約三十七年間取り組んできた地鶏・阿波尾鶏のブランド戦略の再構築が求められることになる。

### 七月に貞光食糧工業から事業譲渡

十文字チキン四国は、岩手の鶏肉製造販売会社・十文字チキンカンパニーが貞光食糧工業を買収して設立した新会社。今年七月にスタートした。両社の社長は十文字保雄氏だ。

十文字社長は新会社設立時、メディア取材や取引先に対し、「阿波尾鶏の農場と生産体制を維持・存続していく」とアピール。七月一日には後藤田知事と面会。養鶏業の発展について意見交換した。

わずか二か月で阿波尾鶏事業の「維持・存続」から「縮小・撤退」へと転じた十文字チキン四国。県と進めるブランド戦略からの離脱とも言える方針転換の狙いは何なのか。

▲後藤田知事を表敬訪問した十文字チキンカンパニーの役員。左から辻社長（貞光食糧工業）、後藤田知事、十文字社長、圃田専務、小澤専務（十文字チキン四国）。

# 企業論理に翻弄される地鶏ブランド

### 企業規模を拡大させた合理化経営

岩手にある親会社の十文字チキンカンパニーは今年三月期の売上が七八七億円。十文字チキン四国の売上を足すと一千億円の大台に近付く。税引き後の利益は約百億円規模だ。

十文字チキンカンパニーの経営戦略は徹底した合理化経営。「十文字フィロソフィー」と呼ばれるものだ。コスト縮減で無駄を省き企業規模を拡大している。

ベースにあるのは「経営の神様」と言われる稲盛和夫氏のフィロソフィーだ。十文字社長は稲盛氏の信奉者で、同社長のブログによると、稲盛哲学や用語をまとめた「緑の手帳」を社員に配布。朝礼で読ませている。

稲盛フィロソフィーの一つが「売上を極大に、経費は極小に」というコストダウンに徹した経営の合理化だ。十文字社長はこの稲盛フィロソフィーに従い、業績を上げていった。

「十文字社長の狙いはシンプルです。儲からない阿波尾鶏はやめて、儲かるブロイラー一本に絞るということでしょう。利益を追求する経営者ならではの選択です」（業界関係者）。

阿波尾鶏が儲からない理由は、飼育日数がブロイラーより長く、餌代などコストがかかるからだ。ひよこ代も高い。販売できるのは主にもも肉。他の部位は商品価値が低い。

コストがかかる阿波尾鶏。十文字チキン四国での処理羽数はブロイラーよりはるかに少ない。一日三万〜三万五千羽のブロイラーに対し、阿波尾鶏は二千五百羽前後。ブロイラーの十分の一かそれ以下だ。

### 阿波尾鶏関係者から驚きと戸惑いの声

新会社設立からわずか二か月後に営利企業の素顔と本音を現し始めた十文字チキン四国。阿波尾鶏関係者から「君子豹変」に驚きと戸惑いの声が上がっている。

「十文字社長は七月の社名披露会で取引先など約百人を集め、阿波尾鶏事業の存続をアピールしていました。あの言葉は一体何だったのでしょうか」。業界紙「食肉通信」によると社長スピーチは次の通りだ。

「岩手からこちら（徳島）に入り、知事はじめ多くの方々と対話を重ねる中で、皆さんがいかに『阿波尾鶏の未来』に強い関心と期待を寄せているかを肌で感じた。地元にとってかけがえのないブランドであり、この地を支える大黒柱。大小を問わず、農場と生産体制を維持・存続していく」。

来年二月末での阿波尾鶏事業からの撤退説が浮上する十文字チキン四国。稲盛フィロソフィーの信奉者である十文字社長は、稲盛氏の次の言葉を咀嚼できているのだろうか。

「嘘をついてはいけない。人に迷惑をかけてはいけない。正直であれ。欲張ってはならない。自分のことばかりを考えてはならない」。

### 齟齬が生じる阿波尾鶏の生産計画

阿波尾鶏事業からの撤退説が波紋を呼ぶ十文字チキン四国。経営の合理化は営利企業として当然の選択だが、撤退すれば、官民で進める阿波尾鶏のブランド戦略に齟齬と誤算が生じることになる。

県が開発した阿波尾鶏は県と関連企業で構成する阿波尾鶏ブランド確立対策協議会が一年間の生産計画を管理。丸本や貞光食糧工業での年間生産羽数が決められている。

県畜産振興課によると、今年度の計画は来年三月まで。十文字チキン四国が来年二月末で事業撤退を決めても、同社には計画に従い来年三月分のひよこが割り振られ、生育させることが求められる。

最後のひよこが成長するのは来年六月中旬。本来なら十文字チキン四国が一人前になった阿波尾鶏を処理、販売すべきだが、二月末で事業撤退すれば、処理待ちの阿波尾鶏が宙に浮くことになる。

想定されるのは同業者である丸本への処理と販売委託、事業譲渡だが、丸本も一年間の処理・販売計画がある。余分な阿波尾鶏を押し付けられても対応に困るだけだ。

生産農家への影響も懸念される。阿波尾鶏は年三〜四回の回転で鶏を飼うが、ブロイラーは年五〜六回鶏を飼う。阿波尾鶏からブロイラーにチェンジすれば、ひよこの入荷、鶏の出荷、重労働な鶏糞除去と洗浄など農家の負担が増える。

阿波尾鶏の生産農家には、小規模鶏舎を持つ高齢者が多い。阿波尾鶏からブロイラーへの急な変更に対応できず、廃業を余儀なくされる農家の出現が懸念されている。

### 再構築求められるブランド戦略

十文字チキン四国の阿波尾鶏事業からの撤退は、地鶏ブランドのイメージダウンも招くことになる。十文字チキン四国が撤退すれば、「年間生産羽数日本一」の座から陥落する恐れがある。

十文字チキンカンパニーに事業譲渡した貞光食糧工業の辻社長はこの展開を予想していたのだろうか。五月二十五日までブランド確立対策協議会の会長だった同氏の思いはバトンタッチされなかったのか。

阿波尾鶏の一日の生産羽数は丸本が約三千五百羽前後、十文字チキン四国が約二千五百羽前後。丸本に十文字チキン四国分の生産・処理・販売を依頼しても、キャパオーバーだ。

「生産・販売しても儲からない。ブロイラーがまし」と冷徹な企業論理の洗礼を受ける阿波尾鶏。希少な地鶏イメージと実利を兼ね揃えたブランド戦略の再構築が待ったなしだ。

### ■阿波尾鶏

阿波尾鶏は県の農林水産総合技術支援センターが開発した肉用鶏。軍鶏の雄と白色プリマスロックの雌との交配種。高たんぱくで低脂肪、赤みを帯びた肉色が特徴だ。

県内二か所のふ化場で軍鶏とプリマスロックを放し飼いにし、交配させる。生まれた卵はふ卵器で温め、二十一日後にひよこになる。ひよこは県内約五十ヶ所の生産農家に持ち込まれる。

生産農家では約七十五日生育され、県内二か所の処理場に運ばれ、商品化され販売される。処理場は海陽町の丸本とM&Aで貞光食糧工業を買収したつるぎ町の十文字チキン四国だ。

阿波尾鶏の生産は平成元年から始まった。平成十三年に地鶏初のJAS認定された。一年間の生産羽数は令和七年度で約百七十万羽。全国の地鶏でトップの座を占める。

あなたの情報大募集!!
秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。
本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。
「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。
社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。
〒770-0874
徳島市南沖洲2丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

# 外郭団体改革の実態①

## 懇意の民間人材に「ポスト」と「報酬」
## 観光協会、地域商社

後藤田知事の外郭団体改革は、懇意の民間人材に「ポスト」と「報酬」を与えることなのか。観光協会では抜擢した副理事長の利益相反取引が疑問を招き、地域商社ではヘッドハンティングした会長への総会承認なき高額報酬が物議を醸した。スポーツ協会では民間人材の理事長抜擢をめぐり、協会との攻防が続いている。外郭団体改革の大義名分を掲げ、県関連の公益法人トップに懇意の民間人材抜擢をめざす知事だが、「公権力を濫用した便宜供与か」「独立した公益法人への不当介入か」と批判を招いている。

「言うこと聞けないなら、他の外郭団体へ移れ」
権力の暴走
電話でしか脅せないのか?
志田副知事
徳島県 後藤田知事
大言壮語で自滅
横槍に「ノー」
疑念招く「便宜供与」と「不当介入」
観光協会
地域商社
スポーツ協会
姜盛文氏
南波岳大氏
牛尾信介氏

### 地域商社会長は一、五〇〇万円、高額報酬もらう外郭団体トップ

民間の専門人材を抜擢して外郭団体（行政連携団体）の改革に取り組む後藤田知事。疑問を呼ぶのは、ルールやコンプライアンスを軽視した人事と高額報酬だ。

観光協会では大韓民国民団徳島県地方本部団長の姜盛文氏を副理事長や委託業者として起用。年間報酬は一、六五〇万円だ。同氏は県知事の国際戦略特別顧問にも就任している。

地域商社ではアミコビル運営の徳島都市開発㈱前社長の南波岳大氏を会長に抜擢。年間報酬は一、五〇〇万円。地域商社担当の県商務戦略課は南波夫人を臨時職員として採用した。

姜氏は経営するカン商事と観光協会との利益相反取引が疑問を呼んだ。南波氏は定款違反の報酬支給が問題視された。共通するのはルールに基づく手続きの後回しだ。

### 「不当介入だ」、知事との攻防続くスポーツ協会

後藤田知事が会長を務める公益財団法人徳島県スポーツ協会でも、懇意の民間人材の常勤役員への抜擢を目論む知事と「不当介入だ」と反発する協会との攻防が続いている。

民間人材は東京の㈱UST（アスト）の牛尾信介社長。後藤田正晴氏の後援企業だった㈱セイアの経営者一族。UST（アスト）はスポーツを通じた地域活性化を行う企業だ。

牛尾氏はプロバスケットボールチームの運営会社社長を歴任するなどスポーツビジネスの専門家として知られる。現在徳島県スポーツコミッションのアドバイザーを務めている。

### 知事の意向を拒否したスポーツ協会

知事と協会の攻防は今年一月に口火を切った。知事の意向を受けた部長が協会に「スポーツコミッション業務の協会への移管」「牛尾氏の常勤役員への就任」を要請した。

協会は「会長である知事には人事権はない。不当介入だ」と反発。二月に総務委員会を開催。全会一致で「要請には同意できない」と結論。理事会で報告し、県に文書回答した。

協会から「ノー」を突きつけられた知事は、協会を「抵抗勢力」と見做し、知事の権限をフル活用して、人事や予算で協会を締め付け、自分の言うことを聞かそうとした。

人事では外郭団体の改革を振りかざした。今年四月に打ち出した「三年交代ルール」を持ち出し、抵抗勢力の急先鋒と見做した田中理事長と徳永事務局長を異動させようとした。

「三年交代ルール」は外郭団体に再就職した県OBは三年経過したら原則異動するというもの。ベースには「県OBは漫然と仕事をして、外郭団体の役に立っていない」という認識がある。

### 「三年交代ルール」で抵抗勢力の追い出し図った知事

県OBの「三年交代ルール」を活用して田中理事長らの追い出しを目指した県は、狙い撃ち人事の批判を避けるためか、複数県OBを巻き込んだ人事プランを捻り出した。

内容は次の通りだ。

牛尾氏をスポーツ協会理事長に抜擢する。スポーツ協会の田中理事長を県民活動プラザ事務局長に、徳永常務（事務局長）を県環境整備公社にそれぞれ異動させる。

県民活動プラザの大塚事務局長を県国際交流協会の理事長にする。国際交流協会の三好理事長をスポーツ協会の常務（事務局長）にして、理事長就任の牛尾氏をフォローさせる。

抵抗勢力の追い出しを図った玉突き人事は、志田副知事が協会側に指示。志田副知事からは「断ることはできない。断れば、県OBの対象外になる」と通告されたという。

### たらい回し人事でとばっちり受けた県OB

志田副知事の理事長らに対する「スポーツ協会から出ていけ」の異動指示に対し、協会は六月の理事会や評議員会で理事長らの再任を決定。志田副知事の指示をはねつけた。

協会の「ノー」で玉突き人事プランが破綻した県はOB人事の再考を迫られた。編み出したのは文学書道館を巻き込んだたらい回し人事。その内容は次の通りだ。

県民活動プラザの大塚事務局長を文学書道館の館長にする。文学書道館の玉田館長を国際交流協会の理事長にする。国際交流協会の三好理事長を県民活動プラザ事務局長にする。

三角トレードとも言えるたらい回し人事だが、玉田氏は四月に文学書道館の館長になったばかり。スポーツ協会理事長らの追い出し人事失敗のとばっちりを受けた格好だ。

### 「無茶苦茶だ」、ルール無視に戸惑う職員

自分の言うことを聞かない県OBを「抵抗勢力」と見做し、締め上げる後藤田知事だが、逆上する前に「なぜ県OBが知事の言うことを聞かないのか」と自問自答、自省すべきだ。

理由はシンプル。知事の意向や指示が無茶苦茶だからだ。いくら県政トップの知事の指示でも、法令やルール、行政手続きや社会常識から逸脱したものは実行できるわけがない。

「専門家と称する自身の知人や友人など『特定人物』に『ポストと報酬』を与える。意に沿わない団体は人事面や予算面で締め上げる。これを改革と言うなら、これは知事の職権乱用、コンプライアンス違反であり、各団体のガバナンスの侵害と言わざるを得ない」（県OB）。

### コンプライアンス意識に欠ける外郭団体改革

四月に外郭団体見直しの方針を打ち出し、専門性を有する民間人材を登用し、トップダウンで改革に乗り出す知事だが、その手法は稚拙で粗暴。子供が気に入った玩具を振り回すようなものだ。

「専門家」として各団体に推薦するなら、実績や費用対効果など判断材料を開示すべきだ。知事が自分だけで「素晴らしい専門家だ」と思い込んでいるだけの人材など受け入れられるわけがない。

お気に入りの民間人材を独りよがりに「専門家」と称して外郭団体に押し付け、ポストと報酬を与えているなら、「権限を濫用した便宜供与か」と疑念を招いても仕方ない。

行政手続きは「枝葉末節」ではない。知事には職員に身を持って「法令順守」を示す責務がある。コンプライアンス意識のない外郭団体改革はまさに暴挙。知事失格だ。神のご加護を…。

## 見〜つけた!! 街角美人

No.168

今回の街角美女は、ジャズ・ボサノヴァ歌手の谷山和恵さん。大丸心斎橋店の地下二階のフードコートでお客さんを魅了していた。ブラジルカラーの緑と黄の鮮やかな色彩の装いが目を引く。帽子までグリーンで統一されている。

幼少期から歌が好きで、地元の少年少女合唱団に所属した谷山さん。現在は関西を中心に活躍している。チャーミングな笑顔と軽やかな歌声で、ブラジル音楽の魅力を発信し続けている。

購読料：年間 8,400円 トリビューン・電子版 tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

# 来春 知事選

## 徳島 県議会自民党

## 隙間の声 後藤田を見限った 動き始めた

## 名前が上がる 復興庁の新居統括官 三好市の高井市長

新居復興庁統括官
高井三好市長
後藤田知事

## 一本化を模索する動きも

### 県議会最大会派の自民党が知事の問責決議案提案へ

来春知事選が動き出しそうだ。チェック機能を発揮せず、「吠えない番犬」と揶揄された県議会最大会派の自民党が、九月議会閉会日の七日に後藤田知事の問責決議案を提案する構えだ。

「北海道の修学旅行はクマが出たら終わり」「三好市民は新ホールに来てもらわなくていい」等舌禍騒動が相次ぐ知事にお灸をすえるが、発するシグナルは「グッバイ後藤田」だ。

問責決議案には野党会派も同調する見通しで、可決は確実だ。来春知事選まで約半年。県議会自民党が知事を見限ったことで、県政は一気に選挙モードに突入だ。

知事は明言をしていないが、「県民の評価、期待感に委ねる」と再選出馬に意欲的だ。焦点は対抗馬。名前が上がるのは、復興庁統括官の新居泰人氏と三好市の高井美穂市長だ。

### 同級生の仁木衆院議員と県内行脚、新居統括官

新居氏は過去の知事選でも名前が上がった定番候補者。吉野川市出身。経産省の幹部官僚で行政手腕は定評だ。事務次官レースからは外れ、政界転身に前向きと言われる。

徳島一区の仁木博文衆院議員と徳島市高の同級生。仁木衆院議員が同氏の知事選擁立に前のめりだ。県内で新居氏を連れ回すなど、「知事選出馬か」と話題を呼んだ。

仁木・新居コンビの県内行脚は自民党関係者らから「先走るな」と指導を受け現在自粛モードだが、県議会自民党の嘉見会長が新居氏擁立に向けて、水面下で環境整備中だ。

知事の問責決議案提案で反後藤田の方向指示器を点滅させた県議会自民党が、出馬要請などいつ新居氏擁立に動くか。Xデーに向け、カウントダウンに入っている模様だ。

### 十月中旬に決断、三好市の高井市長

五月の知事・市町村会議の懇親会で、知事に「三好市民は新ホールに来てもらわなくていい」と暴言を吐かれた三好市の高井市長も来春の知事選出馬に意欲的だ。

ダイエーから政界転身。旧民主党の衆院議員、県議を経て、三好市長に就任。現在二期目だ。国の交付金等を有効活用した安定感ある行財政運営やまちづくりは評価が高い。

昨年七月に再選。約三年の市長任期を残すが、知事の県政運営に危機感を抱く県民から知事選への出馬要請が相次いでいる。徳島県初の女性知事への期待感も高まっている。

本人は「状況が整えば出馬する」と各方面で知事転身への意欲を公言。県民の反応を探っている。十月中旬には知事選に出馬するかどうかの決断を行う模様だ。

### 知名度がない新居氏、自民党に旧民主アレルギーが残る高井氏

来春知事選で後藤田知事の対立候補として名前が取り沙汰される復興庁の新居統括官と三好市の高井市長だが、それぞれメリット、デメリットが指摘されている。

新居統括官はキャリア官僚として行政手腕や国とのパイプは申し分ないが、東京生活が長く、県内での知名度は低い。ルックスも地味で、浮動票の喚起力は弱い。

自民党県連が選対を仕切り、市町村長や議員、政党、各種団体・企業など組織選挙の体制を構築できるかが鍵だ。仁木衆院議員の後援会が実働部隊になりそうだ。

高井市長はかつてのマドンナ政治家の面影はないが、華やかな雰囲気は現存。後藤田知事の過去の女性スキャンダルがフラッシュバックすれば、女性票や浮動票を喚起しそうだ。

不安材料は全県選挙の体制を構築できるか。組織票を持つ自民関係者には旧民主アレルギーがあり、旧民主関係者の一部には党派性を薄めた高井氏に感情的アレルギーがある。

### 県民離れが加速する後藤田知事、不出馬に追い込まれるかも

知事選の焦点は三つ巴になるか、新居統括官と高井市長が一本化できるか。

三つ巴になれば、徳島県は女性人口が二万八千人多いだけに、高井市長が阿波女旋風で浮上するか。

対立候補が一本化すれば、大風呂敷公約を広げただけで実績がない知事は厳しい。県民から一人二万円、年二回のパーティーで政治資金を集める後藤田知事。海外戦略など血税の浪費政策に県民の怒りが爆発すれば、ジ・エンドだ。

## うまいもん探訪団

羊肉を主にした贅沢料理の数々
**モンゴル料理 アンダ**
営業時間：月〜日、祝日、祝前日：12:00 〜 14:30
（料理 L.O. 14:00 ドリンク L.O. 14:00）
17:00 〜 23:00（料理 L.O. 22:00 ドリンク L.O. 22:00）
予算：3,000 〜 8,000円（羊のスペアリブー1人前（5本）2480円〜）
定休日：なし
住所：〒556-0021 大阪市浪速区幸町2丁目3-14
沢村マンション 1F
電話：050-3595-6666

▲馬頭琴の生演奏を聴きながら、モンゴル料理が楽しめる。写真左は女将のヨシミさん。内モンゴルの出身だ。

今回は大阪の旨いもんスポットを紹介しよう。店名は「アンダ」。本格的なモンゴル料理とモンゴルの伝統楽器の生演奏が堪能できる店だ。場所は浪速区。千日前線桜川駅近くだ。

「アンダ」という店名はモンゴル語で「盟友」。義兄弟の誓いを立てた親友のことだ。店内は和食料理店のスタイルだが、暖簾のデザインや置物の楽器がモンゴルをイメージさせる。

モンゴル料理と言えば、羊の肉。席に案内され、お勧めメニューの「羊の串焼き」と「羊のホルモンスープ」を注文。柔らかな羊肉の食感とビールがベストマッチだ。

追加注文しようとしたら、女将が「他にもおいしい料理がありますよ」とニッコリ。「お任せします」と依頼すると、出てきたのが山盛りの羊肉の盛り合わせ。ボリューム満点だ。

中身を聞くと、「串焼きとラムチョップ、炒め羊肉、羊のバラ肉です。アンダ特製の味付けですよ。よろしかったら、焼きましょうか」と女将。まさに羊肉尽くしだ。

話を聞くと、料理担当はモンゴルからやってきたプロの料理人。「モンゴル料理店は多いですが、当店の売りは本場のモンゴル料理が味わえるということです」（女将）。

メニューを見ると、焼き肉のほか、ホーショールという羊肉の揚げ餃子、シャルビンという肉入りパンなど、食欲をそそるモンゴル料理がずらりと並んでいる。

店内では馬頭琴と言われるモンゴルの伝統楽器の生演奏も行われている。馬の頭の彫刻を持つ二弦楽器だ。馬のいななきや草原の風をイメージさせる演奏だ。

馬頭琴の生演奏を聴きながら、柔らかい羊肉などボリュームたっぷりのモンゴル料理が楽しめる「アンダ」。異国情緒が堪能できる旨いもんスポットだ。

徳島県立学校教員らから「四月から出張旅費が一円も支給されていない」と怒りの声。原因は導入した旅費システムの不具合。県情報政策課は「現在復旧した。徐々に支払っている」。県はシステム構築をテック情報に五、八〇〇万円で委託。

先物取引で約三千万円の所得を上げていた遠藤徳島市長。投機筋から「先物は価格変動の常時チェックが必要。公務に専念できていたのか」との指摘。